

小島修一教授略歴・著作目録

雑誌名	甲南経済学論集
巻	52
号	3・4
ページ	vii-xx
発行年	2012-03-20
URL	http://doi.org/10.14990/00001442

小島修一教授 略歴・著書目録

小島修一教授略歴

1947年3月5日、大阪市に生まれる。

学 歴

- 1965年4月1日 関西学院大学経済学部入学
- 1969年3月31日 同上 卒業
- 1969年4月1日 大阪市立大学大学院経済学研究科修士課程入学
- 1972年3月31日 同上 修士課程修了
- 1972年4月1日 大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程入学
- 1976年3月31日 同上 博士課程単位修得退学

非常勤

- 神戸商科大学（1979年、1981年、1983年、1985年）
- 北海道大学スラブ研究センター研究員（1985年4月1日～1988年3月31日）

甲南学園における経歴

(1)甲南大学関係

- 1976年4月1日 経済学部講師
- 1979年4月1日 経済学部助教授
- 1984年4月1日 経済学部教授

(2)主たる役職等

- 甲南大学学生相談室長（1996年4月1日～1999年3月31日）

甲南大学カウセリングセンター所長

(1997年4月1日～1999年3月31日)

甲南大学経済学部長 (1999年4月1日～2001年3月31日)

甲南大学大学院社会科学部研究科経済学専攻主任
(1999年4月1日～2001年3月31日)

(3)主な委員・会議員

- | | |
|------------------------|-----------------------------------|
| ○学生部委員 | ○5号館建設委員会委員 |
| ○大学院社会科学部研究科委員会委員 | ○省エネルギー・省資源委員会委員 |
| ○学長候補者選挙管理委員会委員 | ○広域副専攻センター協議会委員 |
| ○入試制度検討委員会委員 | ○スポーツ能力に優れた者の推薦
入学試験選考委員会委員 |
| ○入学試験問題出題委員 | |
| ○研究・教育交流委員会委員 | ○スポーツ推薦入学試験選考委員
会委員 |
| ○図書館商議員 | |
| ○図書館管理委員 | ○学長候補者選挙管理委員会予備
委員 |
| ○国際交流センター運営委員会委員 | |
| ○カウセリングセンター運営協
議会委員 | ○Inter-Faculty Program設立委員
会委員 |
| ○カウセリングセンター委員会
委員 | ○補導協議委員会委員 |
| ○自己点検・評価運営委員会委員 | ○学長辞任請求管理委員会委員 |
| ○学生相談室委員会委員 | ○甲南高校とフランス甲南学園ト
ウレーヌ高等部との協議会委員 |
| ○国際交流助成運営委員会委員 | |
| ○学生援助活動実施委員会委員 | ○大学会議員 |
| ○研究活動実施委員会委員 | ○職業指導委員 |
| ○教務部委員 | ○新校舎建設委員会委員 |

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ○長期計画推進委員会委員 | ○大学院委員会委員 |
| ○教職課程委員会委員 | ○情報教育研究センター協議会委員 |
| ○日本育英会甲南大学委員部委員 | ○学生相談室運営協議会委員 |
| ○日本育英会甲南大学（第二）委員部委員 | ○公開講座委員会委員 |
| ○国際交流センター協議会委員 | |
| ○新5号館（3階等）学習情報環境整備委員会委員 | ○ハイテク・リサーチ・センター協議会委員 |
| ○国庫助成に関する全国私立大学教授会連合委員 | ○入学試験実施委員 |
| | ○広域副専攻センター運営委員会委員 |

賞 罰

1996年4月21日永年勤務により表彰さる（20年表彰）

学会報告

- 1) 「近代ロシア経済史研究の一動向 —— A.Gerschenkronの所説をめぐって」
社会経済史学会近畿部会（1976年4月17日 神戸大学）
- 2) 「ロシアにおける農民経済研究」
経済学史学会関西部会（1981年1月31日 立命館大学）
- 3) 「ロシアにおける農村社会研究 —— ネオ・ナロードニキ学派の形成と展開」
北海道大学スラブ研究センター夏季セミナー（1985年7月10日）
- 4) "Peasant Migration to Cities in Late Tsarist Russia. A Comparison to the Japanese Experience"
Japanese-Soviet Joint Project, May 1990 in Leningrad

- 5) "Peasant Migration to Cities in Late Tsarist Russia. A Comparison to the Japanese Experience"
The 10th International Economic History Congress,
August 1990 in Leuven (Belgium)
- 6) 「ロシア史研究の新しい課題 —— 最近のアメリカ学界の動向から」
ロシア史研究会創立40周年記念集会 (1996年 3月16日 上智大学)
- 7) 「マックス・ウェーバーのロシア革命論を読む」
ロシア史研究会大会 (1998年10月24日 大阪大学)
- 8) 「ロシア農民認識におけるウェーバーとネオ・ナロードニキ」
社会経済史学会大会 (1999年 5月29日 京都大学)
- 9) "Kondrat'ev's View of Russian Agricultural Development"
Summer International Symposium, "Transformation and
Diversification of Rural Societies in Eastern Europe and Russia"
at Slavic Research Center, Hokkaido University,
July 2001 in Sapporo.
- 10) 「1920年代ロシアの自由主義経済学と農業問題
—— リトシェンコとブルツクス」
経済学史学会大会 (2005年 5月28日 大阪産業大学)

学 位

1988年 3月 東京大学経済学博士

(学位請求論文『ロシア農業思想史の研究』)

所属学会

社会経済史学会、経済学史学会

小島修一教授著作目録

I 著 書

1) 『ロシア農業思想史の研究』

ミネルヴァ書房、1987年3月

2) 『20世紀初頭ロシアの経済学者群像——リヴァイアサンと格闘する知性』

ミネルヴァ書房、2008年10月

II 論文・研究ノート・学界展望

1) 「ヨーロッパ産業史と『後進性』理論

—— A.Gerschenkronの所説をめぐって」

『大阪市大論集』第21号（1975年）78-97頁

2) 「トゥガン=バラノフスキー研究覚え書」

『経済学雑誌』（大阪市立大学）第72巻第5号（1975年）83-104頁

3) 「『ミール共同体』の起源をめぐる諸見解

—— C.Goehrke, Die Theorien über Entstehung und Entwicklung des "Mir",
1964 の一紹介」『大阪市大論集』第22号（1975年）1-25頁

4) 「ネオ・ナロードニキの農業理論（一）（二）（三）

—— オガノフスキーにおける農業認識の構造について」

『甲南経済学論集』第18巻第1号（1977年）71-92頁、『甲南経済学論集』第18巻第2号（1977年）35-54頁、『甲南経済学論集』第18巻第3号（1978年）38-72頁

5) 「西独の東欧研究覚え書」

『甲南経済学論集』第19巻第4号（1979年）138-165頁

- 6) 「A.V.チャヤーノフと農業改革連盟 (一) (二)」
『甲南経済学論集』第22巻第1号 (1981年) 65-72頁、『甲南経済学論集』第22巻第3号 (1981年) 61-71頁
- 7) 「経済思想史におけるロシア論 —— 共同体の問題を中心にして」
『経済学史学会年報』第19号 (1981年) 18-36頁 (田中真晴と共著)
- 8) 「チャヤーノフの比較経済論 (一) (二)」
『甲南経済学論集』第23巻第1号 (1982年) 35-58頁、『甲南経済学論集』第23巻第3号 (1983年) 95-120頁
- 9) 「ネオ・ナロードニキにおける共同体論の構造 (一) (二) (三) (四) —— K.R.カチョロフスキーとロシア農村社会」
『甲南経済学論集』第24巻第2号 (1983年) 49-78頁、『甲南経済学論集』第26巻第1号 (1985年) 87-120頁、『甲南経済学論集』第27巻第2号 (1986年) 71-88頁、『甲南経済学論集』第27巻第3号 (1987年) 45-64頁
- 10) 「農政学者としてのコンドラーチェフ」
『経済学雑誌』(大阪市立大学) 第84巻第4/5号 (1984年) 97-112頁
- 11) 「エンゲルス生誕150年記念文献目録」
『甲南経済学論集』第25巻第3号 (1985年) 65-98頁 (杉原四郎と共著)
- 12) 「ロシア農村研究史における『組織・生産学派』(一) (二)」
『甲南経済学論集』第26巻第3号 (1986年) 1-24頁、『甲南経済学論集』第26巻第4号 (1986年) 53-70頁
- 13) 「帝政ロシアの農家労働力移動 —— 明治日本との一比較」
『甲南経済学論集』第31巻第4号 (1991年) 163-194頁
- 14) 「ソ連の崩壊とアメリカのロシア研究 —— 学界動向管見」
『甲南経済学論集』第35号第3・4合併号 (1995年) 91-107頁
- 15) 「ボリス・ブルツクス研究覚え書」

- 『甲南経済学論集』第37巻第1号（1996年）83-97頁
- 16) 「アメリカにおける近代ロシア経済史研究の一動向
—— 帝政末期の『農業危機』をめぐる論争について」
『社会経済史学』第62巻第5号（1996年）92-106頁
- 17) 「ロシア史研究の新しい課題 —— 最近のアメリカ学界の動向から」
『ロシア史研究』第59号（1996年）110-118頁
- 18) 「亡命のロシア自由主義経済学 ——
ボリス・ブルツクスにおけるソヴェト社会主義」
田中真晴（編著）『自由主義経済思想の比較研究』（名古屋大学出版会、
1997年）269-288頁
- 19) 「社会経済史における災害 —— E.L.ジョーンズの仮説についての覚え書」
藤本建夫編『復興の政治経済学』（甲南大学阪神大震災調査委員会、
1997年）244-254頁
- 20) 「ロシア農民認識におけるウェーバーとネオ・ナロードニキ」
『甲南経済学論集』第40巻第2号（1999年）131-150頁
- 21) 「大改革以後の農民」
藤本和貴夫・松原広志編『ロシア近現代史』（ミネルヴァ書房、1999年）
105-117頁
- 22) 「ケインズとロシア」
『甲南経済学論集』第41巻第3号（2000年）1-30頁
- 24) 「コンドラーチェフとロシアの農業発展」
『甲南経済学論集』第42巻第4号（2002年）25-58頁
- 25) 「ロシアにおける経済学者の復権」
『甲南経済学論集』第43巻第3号（2002年）153-190頁
- 26) 「チャヤーノフとコンドラーチェフ —— 1920年代ロシアの経済学者の
二類型」

- 『甲南経済学論集』第45巻第1号（2004年）35-75頁
- 27) 「1920年代ロシアの自由主義経済学と農業問題 —— リトシェンコとブルツクス」『甲南経済学論集』第46巻第1号（2005年）1-46頁
- 28) 「亡命ロシア人経済学者セルゲイ・プロコポヴィチ（1871-1955）—— 経歴に関するノート」
- 『甲南経済学論集』第46巻第2号（2005年）33-64頁
- 29) 「マックス・ウェーバーとロシア帝国の民族問題 —— 覚え書」
- 『マックス・ウェーバーにおける「民族」問題とその周辺』（甲南大学総合研究所叢書82、2005年）8-29頁
- 30) 「亡命ロシア人経済学者の見たソヴィエト社会主義（一）（二）—— ブルツクスとプロコポヴィチ」
- 『甲南経済学論集』第47巻第1号（2006年）1-38頁、『甲南経済学論集』第47巻第2号（2006年）1-26頁
- 31) 「20世紀初頭ロシアの経済学者（1901-1930年）—— 予備的概観」
- 『甲南経済学論集』第47巻第3号（2006年）117-173頁

Ⅲ 書 評

- 1) S.G.Solomon, The Soviet Agrarian Debate
- 『甲南経済学論集』第21巻第2号（1980年）89-98頁
- 2) 肥前栄一著『ドイツとロシア —— 比較経済史の一領域』
- 『経済学論集』（東京大学）第53巻第1号（1987年）112-115頁
- 3) N. ワース著（荒田洋訳）『ロシア農民生活史：1917-1939』
- 『社会経済史学』第54巻第5号（1989年）116-119頁
- 4) 奥田央著『コルホーズの成立過程』
- 『社会経済史学』第58巻第2号（1992年）130-133頁
- 5) マックス・ウェーバー（笹部幸隆・小島定訳）『ロシア革命論 I』

- 『ロシア史研究』第64号（1999年）80-83頁
- 6) 阪本秀昭著『帝政末期シベリアの農村共同体』
『経済学論集』（東京大学）第65巻第2号（1999年）54-57頁
- 7) 土肥恒之著『岐路に立つ歴史家たち —— 20世紀ロシアの歴史学とその
周辺』『社会経済史学』第67巻第1号（2001年）110-112頁
- 8) ヴィンセント・バーネット（岡田光正訳）『コンドラチェフと経済発展
の動学』『週刊読書人』2002年11月22日号
- 9) 中川雄二著『近代ロシア農業政策史研究』
『ロシア史研究』第73号、2003年、68-70頁
- 10) J.Zweynert, Eine Geschichte des ökonomischen Denkens in Russland.
1805-1905.『経済学史学会年報』第44号（2004年）125-126頁
- 11) V. Barnett, A History of Russian Economic Thought
『経済学史研究』第49巻第1号（2007年）174-175頁
- 12) 奥田央編著『20世紀ロシア農民史』
『社会経済史学』第73巻第3号（2007年）108-110頁
- 13) 崔在東『近代ロシア農村の社会経済史』
『三田学会雑誌』（慶応義塾大学）第101巻第2号（2008年）185-188頁
- 14) ロバート・F・バーンズ（清水昭雄、加藤史朗、土肥恒之訳）
『ロシアの歴史家 V.O.クリュチェフスキー』
『社会経済史学』第77巻第3号（2011年）154-156頁

Ⅳ 小論説・エッセイ他

- 1) 「紹介：E・H・カー『ボリシェヴィキ革命』」
松田道雄編『ロシア革命』（平凡社、1972年）366-367頁
- 2) 「紹介：溪内謙『ソビエト政治史』、『スターリン政治体制の成立』」
松田道雄編『ロシア革命』（平凡社、1972年）374-376頁

- 3) 「西独での三ヶ月」
「経済学会ニュース」(甲南大学経済学会) 第16号 (1978年) 2 頁
- 4) 「一採点者から見た試験の答案」
『学生部便り』(甲南大学学生部) 第82号 (1982年) 6 頁
- 5) 事典項目「トゥガン・バラノフスキー」
『大百科事典』第10巻 (平凡社、1985年) 534頁
- 6) 「山口先生の思い出」
「経済学会ニュース」(甲南大学経済学会) 第27号 (1986年) 1 頁
(『山口和男先生追悼集』西宮 (1987年) 201-203頁に再録)
- 7) 「ロシア・東欧研究会小史」
ロシア・東欧研究会事務局編『ロシア・東欧研究会の25年 1961-1986』(神戸、1987年) 3-7 頁
- 8) 「世紀末のソ連について」
『学生部便り』(甲南大学学生部) 第115号 (1991年) 4-5 頁
- 9) 「経済学部の外国語教育」
『ゼフィール』(甲南大学国際言語文化センター) 第2号、1995年
- 10) 「ウェーバーのロシア革命論に関する研究動向 —— 戦後の欧米とロシア」
マックス・ウェーバー『ロシア革命論 II』(名古屋大学出版会、1998年) 385-404頁
- 11) 「訳者解説」
S.コールバーグ『マックス・ヴェーバーの比較歴史社会学』ミネルヴァ書房 (1999年) 289-300頁 (黒田忠史と共著)
- 12) 「新刊紹介：M.ウェーバー『ロシア革命論 II』」
『藤棚』(甲南大学図書館) 第15巻第1号 (1999年) 2 頁
- 13) 「追悼 田中真晴先生」
『ロシア史研究会ニューズレター』No.39 (2000年) 3 頁

- 14) 「未完のロシア自由主義研究」
『追想 田中真晴先生』（田中真晴先生を偲ぶ会、京都、2002年）
68-72頁
- 15) 「今の学生は、20世紀の社会主義をどう見ているか？」
『経済学会ニュース』（甲南大学経済学会）第56号（2002年）9-11頁
- 16) 「新刊紹介：E.B.Kornitskii, red., Ekonomisty russkoi emigratsii」
『ロシア史研究』第72号（2003年）86頁
- 17) 事典項目「チャーノフ」「トゥガン=バラノフスキー」「ネオ・ナロードニキ」『新版 ロシアを知る事典』（平凡社、2004年）480-481頁、
511-512頁、561-562頁
- 18) 「新刊紹介：H. Rieter et al., Hg., Deutsche und russische Ökonomen im Dialog」『ロシア史研究』第79号（2006年）72頁
- 19) 事典項目「小農経済論」
『歴史学事典』第13巻、弘文堂（2006年）288-289頁
- 20) 「日南田静真先生を偲ぶ」
『思い出の記——教育者、研究者、そして人間としての日南田静真』
山愛書院（広島、2007年）86-87頁
- 21) 「回想の保田孝一先生」
『保田孝一先生 追悼文集』保田孝一先生を偲ぶ会（2007年）
19-22頁
- 22) 「甲南大学での杉原四郎先生」
『環』（藤原書店）第39号（2009年）234-235頁
- 23) 「平生日記に見るロシア革命」
『甲南Today』（甲南大学）第39号（2011年）12頁

V 欧文著作

- 1) Japanische Forschungen zur russischen Geschichte in Vergangenheit und Gegenwart, *Jahrbücher für Geschichte Osteuropas*, Bd.33 H.3,1985, S.378-414; Bd.33H.4,1985, S.549-577. (肥前栄一・鈴木健夫と共著)
- 2) Russische Neo-narodniki in der agrarwirtschaftlichen Forschung
—— Eine Bibliographie, 『甲南経済学論集』第26巻第2号 (1986年)
69-104頁
- 3) Neo-Narodniks' View of the Russian Agricultural Development
Acta Slavica Iaponica, Vol.6, 1988, pp.16-26.
- 4) The Changing Japanese Perception of the Soviet Union as seen in
Postwar General-Interest Magazines, *Konan Journal of Social Sciences*,
Vol.2, 1988, pp.21-49.
- 5) Review : E.Hizen, Germany and Russia : A Comparative Socio-Economic
History, *Japanese Slavic and East European Studies*, Vol.9, 1988, pp.101-104.
- 6) Peasant Migration to Cities in Late Tsarist Russia : A Comparison to
the Japanese Experience, V. Vinogradov et al., eds., *Comparative
Economic History of Russia and Japan, Soviet-Japanese Joint Project*,
Leuven, 1990, pp.43-45.
- 7) Peasant Migration to Cities in Late Tsarist Russia : A Comparison to
the Japanese Experience, *Konan Journal of Social Sciences*, Vol.5,1993,
pp.11-28.
- 8) Review : L.Edmondson and P.Waldron, eds., Economy and Society in
Russia and the Soviet Union, 1860-1930, *Russian Review*, Vol.54 No.1,
1995, pp.147-148.
- 9) Review : Hideaki Sakamoto, Siberian Rural Communes in Late Imperial
Russia, *Japanese Slavic and East European Studies*, Vol.19, 1998, pp.123-125.

- 10) Kondrat'ev's View of Russian Agricultural Development : A Preliminary Note, in : O.Jeda, ed., *Transformation and Diversification of Rural Societies in Eastern Europe and Russia*, Slavic Research Center, Hokkaido University, Sapporo, 2002, pp.87-107.
- 11) Comparing Chayanov and Kondratiev : Two Russian Economists in the 1920s, *Japanese Slavic and East European Studies*, Vol.25, 2004, pp.1-25.
- 12) Exiled Russian Economists and the USSR : Brutzkus and Prokopovich, in : V.Barnett and J.Zweynert, eds., *Economics in Russia*, London : Ashgate, 2008, pp.123-140.
- 13) The Changing Perception of Europe in Japanese Historiography : The "Post-War" Period and After, in : M.Sieg und H.Timmermann, Hg., *Internationale Dilemmata und europäische Visionen. Festschrift zum 80. Geburtstag von Helmut Wagner*, Berlin : Lit-Verlag, 2010, pp. 352-366.
- 14) Russian Liberal Visions of Agricultural Development at the Beginning of the Twentieth Century : Litoshenko and Brutzkus, in : A. Akhbar, F. Allisson and P. Bridel, eds., *From Utopia to Social Engineering. A History of Russian Political Economy and Statistics, 1870-1930*.
(forthcoming)

Ⅵ 翻訳

- 1) ヘルムート・ワグナー 「亡き友を想う」
『甲南経済学論集』第27巻第4号（故山口和男教授追悼記念号、1987年）
280-282頁
- 2) ボリス・ミローノフ 「ロシアにおける現在の経済危機とその諸原因
—— 歴史的接近」
『甲南経済学論集』第33巻第2号（1992年）105-133頁
- 3) マックス・ウェーバー 『ロシア革命論 II：ロシアの外見的立憲制への

移行』名古屋大学出版会（肥前栄一・鈴木健夫・佐藤芳行と共訳）、
1998年

- 4) スティーヴン・コールバーグ『マックス・ヴェーバーの比較歴史社会学』
（共訳）ミネルヴァ書房、1999年